

2022年度 第3回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日 時：2022年7月8日(金) 13:00 ~ 16:08

会 場：Zoom WEB ハイブリッド会議

出席者：全理事数 18名、出席理事数 17名、出席監事数 2名(白石監事、津田監事)

リアル出席：小田島会長、横山副会長、小侯副会長、中島副会長、山中副会長、金澤専務、小見常務、
佐々木理事、雨宮理事、下村理事、小橋理事、谷川理事、松本理事、石川理事、藤山理事、
大城理事、大和理事、津田監事

WEB出席：白石監事はWEB出席

会長 小田島綾子氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第33条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

会長挨拶骨子

代協活動に尽力いただき、感謝する。

6/14の通常総会后、能登で地震が発生し、梅雨明けも記録的な速さで、猛暑が続くなど今後の自然災害発生が危惧される。また、新型コロナの感染者数も再び急増するなど代協活動推進に関するハードルはみられるが、BCP訓練・見直しやWeb開催(含むハイブリッド開催)の活用などで乗り越えていこう。

さて、代協の事業推進を円滑に行うために、情報と熱を伝えることがとても重要であるが、正副会長として何ができるかということ昨日の合宿打合せにて論議した。まずは理事会の議案の配信前に、正副会長でWeb会議を行い、議案の深掘り、各理事への問かけや事前準備につながる工夫を行うこととした。初回は8/23に開催する。(9/8理事会の議案書配信は8/25である。)理事会からの発信でより良いものをお届けできるよう運営していきたいと考えているので、ご支援ご協力を改めてお願いする。

なお、理事会設置の一般社団法人の運営は理事会審議が核となるため、改めて焦点をあて、新体制になった本日の理事会の様子を業界紙に掲載することになっている。

< 業務報告 >

対内業務：

・6/16 広報 6/22CSR 6/23 企画環境・6/29 教育の各委員会のはじめの時間にオンライン参加で挨拶させていただいた。各委員間の自己紹介の時間にも同席させていただき、各委員会の活動の活性化に期待を寄せている。7/14 組織委員会に参加予定である。

・6/28 上信越ブロック協議会へ参加した。金澤専務、雨宮理事と一緒に参加し、挨拶させていただいた。年度内に、金澤専務(業務執行理事)と二人で各ブロック協議会を訪問する予定を立てているところである。その前後に損保協会・損保各社の支店訪問も調整中である。

対外業務：

・7/1 損保協会長に就任された損保ジャパンの白川社長が来会され、情報交換した。業界課題の共有と取組み連携について意見交換した。

・7/1 新日本保険新聞社の取材受け(1時間強)

・7/1 業界紙懇談会(業界紙3社の記者4名来会)を3年ぶりにリアル開催し、情報交換を行った。

・7/7 損保7社・損保協会懇談会を開催(感染者急増もあり、懇談会はリアル開催で懇親会は中止)。

・7/8 今年のJCの保険部会長と事務局の行木氏が挨拶並びに国際保険流通会議の打合せで来会された。今年のプログラムと主旨を伺い、11/19 午後の会議パネルディスカッションへの登壇を約した。

本日の理事会での闊達な論議をお願いする。

〔審議事項〕

1. 表彰者選考会議構成員の委嘱

事務局より、資料に基づいて、以下の通り提案され、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・対象年度：2021年度分表彰者選考会議構成員については、表彰施行規則第7条の規則に基づき、以下の5名が選出された。
横山健一郎(副会長)、佐々木雅之(理事)、小橋信彦(理事)、藤山裕介(理事組織委員長)、金澤 亨(専務理事)

【主な説明・意見】

- ・会議開催日程：9月8日(木)11:30~12:30を予定。
- ・6/6発信22-046号2022年度功労者表彰候補者選出のお願い(回答締切7/29[金])をブロック長あて配信し、検討いただいている。地域担当理事も情報連携いただきたい。

2. 第11回日本代協コンベンションの開催

事務局より、資料に基づき、日本代協コンベンションの開催について説明があり、審議・採決の結果、全会一致で、承認された。

【決定したこと】

- ・第11回日本代協コンベンションの開催については、新型コロナの感染状況を踏まえて、9/8(木)開催の理事会にて最終決定をする。
なお、開催方法の選択肢は、以下を想定している。
①式典・懇親会ともにリアル開催、②式典はリアル開催、懇親会はノンアルコール等で実施、式典はリアル開催、懇親会は実施しない、式典もオンライン開催、リアル開催の出席者人数を絞る等

【企画案】(登壇者、MCには内諾をいただいている)

(1) 日程・場所

「式典」: 2022年11月18日(金)13:00-17:30

「懇親会」: 同上 18:00-20:00

於 グランドニッコー東京台場

「分科会」: 2022年11月19日(土)10:00-12:00

於 損保会館会議室及びソラシティカンファレンスセンター(お茶の水)

(2) テーマ

「シン代理店価値」~顧客価値と代理店価値、変革の焦点を定める~

(3) イベント内容

a. 「式典」 = 2022年11月18日(金)13:00 17:30

○開催形式: 上記1.の通り。いずれの方法にしても感染対策を徹底する。

○挨拶 3名 13:00~13:30

- ・ 小田島会長
- ・ 損保協会会長(損保協会に調整依頼済)
- ・ 金融庁 保険課長依頼(参加の方向で調整するとの回答あり)

○功労者表彰 13:20~13:50

- ・ 今年度報告待ち、昨年度は11名
- ・ 表彰対象者は全員招待

- ・ 代表挨拶は1名

○会員懇談会 14:30-15:30

- ・ 2019年度までと同様の形式で開催

過去のアンケートでは、実施については不要とする意見も多いが、不要と判断するまでの整理はされていないため、今年度は実施することとしたい。尚、回答内容については追って文書も作成（例年同様）。

○基調講演 16:00～17:30

- ・ 組織運営において、昨今関心が非常に高まっている「心理的安全性」について取り上げる。オーナー企業かつ少人数組織であることが多い専門代理店において、心理的安全性をいかに確保するかは、重要なテーマと考える。

- ・ 講演者

株式会社 ZENTech 取締役 石井遼介 氏

心理的安全性に関する第一人者であり、講演も数多く行っている。著書「心理的安全性のつくりかた」は、2021年2月に、読者が選ぶビジネス書グランプリ「マネジメント部門賞」を受賞、2021年11月には、HR アワード 2021「書籍部門」で優秀賞を受賞している。

b .「懇親会」

前記の通り、感染の見通し等を踏まえて、最終的には9月理事会にて実施方法を決定したい。2019年度までと同様の開催方法の場合は、損保協会、各保険会社社長、金融庁、政連顧問議員等を含めた業界関係者、全国代協会員の交流の場として実施する。

○MC

柚木脇 千穂氏（ベリテ株式会社 代表取締役）

医学関係の学会イベントでMC経験が豊富な方。

○代協の紹介を兼ねたご当地 PR（担当：阪神ブロック）

○アトラクション

コンベンションPTメンバーより、津軽三味線の方に打診中。

c ,「分科会」 = 11月19日（土）10:00～12:00

○分科会の講演は、いずれも録画の上オンデマンド配信を予定。

【講師】 栗山 泰史アドバイザー

【講師】 中崎 章夫アドバイザー

【講師】 株式会社 dii 代表取締役 永井 伸一郎氏

地域のリスクマネジャーとして、お客様に独自の価値提供を行っている有名な代理店さんのお一人。

【講師】 税理士法人 古田士会計 代表 古田士 満氏

国内最大規模の中小企業のための会計事務所の所長。代理店経営者として必須の、経営計画書の作成とその重要性について、講演いただく。過去に保険会社でも、経営計画書の策定指導に起用されたことあり。

方向性を決めていかないと企画も進められないので、新型コロナ感染拡大を助長しないこと、感染しないこと、させないことを大前提に、リアルとオンラインを併用しながら次につなげるイベントとして開催する。(オンライン配信1,000・録画提供)

【主な意見等】

- ・ リアル参加には事前の抗原検査等をセットしてはどうか。
- ・ 例えば、東京都で感染者数2万人などのガイドラインを決めておいてはどうか。
- ・ 国のまん延防止措置等の基準に照らすと決めてはどうか。判断時期は少し先送りできないか。

- ・6～7月は、各保険会社の表彰式はリアル開催を復活している。ノンアルコール、手酌、移動禁止など工夫して開催している様子である。リアル開催は貴重と判断している。

3. 事業計画推進状況

2022年度日本代協・各代協加盟代理店等のPR企画案について、大和広報委員長から説明、提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・2022年度の広報PR企画は「共同広告社」の企画案を採用し、制作に入る。

【主な説明・意見】

2022年度の広報PR企画

- ・広告代理店3社（毎栄、共同広告社、千葉テレビ放送）[ユーティワイ企画は前日に辞退連絡あり]によるPR企画のプレゼンコンペを6/16（木）に実施した。コンペ開催に当たっては、仕様書を配信するだけにとどまらず、イメージ合わせのための各社との個別Web会議などを実施して臨んだ。
- ・各社からは、そのノウハウやネットワークを駆使した企画を提案いただいたが、以下の理由から広報委員会としては共同広告社の企画を推挙することとなった。

< 共同広告社 提案概要 >

第三者視点で伝えたい情報をターゲットに対して、わかりやすく伝達することが可能な提案であり、不特定多数への配信ではなく、ターゲットを設定し、閲覧数を確保する広告配信（NewsTV=広告色が薄い）による動画再生回数向上が期待できる。

映像コンテンツ：

・映像（60秒～90秒×3本）

対象者が異なる3パターンの提案（動画の詳細については理事会決議後打合せ予定）

以下のいずれかのパターンで作成する。

- ・「担当者インタビュー」：担当者が出演し、活動内容を取材形式で発信
- ・「街頭インタビュー×調査データ」：世論の声を拾い上げた上で、事実を調査データなど活用し伝達
- ・「専門家インタビュー」：専門家・著名人など代協の魅力を外から発信

配信シミュレーション

20～49歳の損害保険関心層に対し、配信することで約110万回の視聴、約18万回の視聴完了を想定

・WEB情宣：

・「マネープラス」タイアップ（記事広告）

お金のことを、より身近に、よりわかりやすく発信するコンテンツに今回のPR企画の3つの目的をテーマに記事を作成。（クリックすると課金される仕組み：予算枠設定）

メディア発信という第3者の説得力を得る。YouTubeインストリーム広告

・popInDISCOVERY

国内最大規模のネイティブアドネットワークにより「マネープラス」のタイアップページへのさらなる集客を実現させ最大6万ページビューを想定。

その他：

チラシ制作（データのみ）

< 選定理由等 >

- ・トータルプランナーを他者の口（媒体）から発信してもらう事で、視聴者への訴求力が

高まる

- ・NEWS という感覚だとインパクトがあり視聴者も見入るのではないが
- ・広告宣伝に重きを置くべきとの声が上がっているため、その意味では一番評価できる提案だった
- ・ターゲティングが明確になっているが、認知拡大には弱い気がする
- ・あちこちにばらまくイメージがあり、街頭インタビューは知らない人のコメントとなるので不安感がある
- ・制作の段階でしっかり噛みこんでいく必要がある

<今後の主なスケジュール>

- ・7月中旬～8月末 : 事前打合せ・構成案作成

<意見>

- ・予算として1,000万円ありきとなっていないか。予算の上限の金額であるので選考評価において費用対効果の評点を上げてはどうか。
- ・1,000万円の上限予算を置くPR企画自体をやめるという検討も必要ではないか。
- ・映像やWeb情宣の評価・採点については専門家と連携できる仕組みの構築が必要ではないか。(現広報委員の中には前職大手広告会社社員がおり、専門的なチェック目線を持っていた。)

〔資料 審3.〕 2022年度広報PR企画選考結果(P.4-5)

4. ブロック推薦委員の交代

事務局より、ブロック推薦企画環境委員の交代申請の報告があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・九州南ブロック企画環境委員を宮崎県代協 田中 榮治 氏へ交代する。
((有)ビーフォーユー、MS代申5社乗合、宮崎県代協監事)

【主な説明】

- ・理由：新任会長の交代に伴い、新体制のブロック運営における連携が期待できるため

5. 日本代協アドバイザーの委嘱

事務局より、代理店経営未来塾の講師を務めている滝澤清隆氏に日本代協アドバイザーを委嘱することについて、提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・滝澤清隆氏に日本代協アドバイザーを委嘱する。
- ・他のアドバイザー同様、年間の委託料は発生せず、個別委託業務毎に謝礼を支払う。

【主な内容】

- ・全国の延べ30,000人の経営者・幹部が受講する社長の学校の運営統括者であり、企業研修や大学講義のカリキュラム作成を行っている。
- ・昨年度開始した日本代協「代理店経営未来塾」も17名が受講中であり、経営のセオリーを修得し、好評を集めている。8/22にサマーセミナーを開催する。第2期生については、10月開催を企画し、改めて案内予定である。
- ・代理店の組織づくり研修、ブランドづくりコンサルティングも実施している。
- ・講演、執筆、意見交換等に活動にも積極的に対応いただける。

〔資料 審5.〕 日本代協アドバイザー候補者のプロフィール(P.6)

〔報告事項〕

1. 各理事からの報告

地域担当理事からは、各地の現状において、素晴らしいと捉えた取り組みと反対に困ったと感じた事について、報告いただき、情報共有した。

(1) <地域担当理事>

- ・ブロック協議会に代理参加した（一方はZoom,一方はリアル）。双方ともしっかりとした運営を確認した。支部長が全員組織委員となり、仲間づくり推進を強力に進めている代協がある。6月末で2022年度の入会目標の69%を達成している。（＝「早めの着手、早めのスーパースター」を合言葉に推進中とのこと）

一方で、不公正募集と思われる事案に関するフローチャートが浸透していないことやスマートフォンリペアの仕組みや対応について理解が薄い会員がいることも確認できた。

- ・各ブロック会議にはリアル参加できた。新任会長の代協では、三冠獲得してフグを食べるとの企画から意思結集を確認した。代理店賠償セミナーでの102名の集客、三県合同清掃企画等々事業計画を推進している。またモーター系代理店に代理店賠償を提案し、共感（自動車の取扱う業者は自管賠の付保は必須と認識しており、保険の取扱いにおいても代理店賠償は必須と腹落ち）を得て、年度の入会目標を7月に達成できる代協が出てきた。

また、小田島会長、金澤専務のブロック協議会訪問の日程調整も順調に進んでいる。社労士診断認証制度の取組ではブロック協議会の場で「宣言」申請を一緒に行った代協が10%を達成した。

（神奈川、山口が10%目標ラインを達成済、日本代協役員や委員が改めて「宣言」済が確認いただきたい。）

- ・地域の6代協の理事会に参加した。委嘱状をもとに地域担当理事の仕事をお伝えした。各代協の会員の声を聴き、論点を整理して地域の問題として、日本代協に届けたい。多くの代協では三冠王を目指す風土が醸成されており、一体感を持った取り組みが進んでいるが、1期ごとに会長が交代する代協では理事のモチベーション維持・向上の腐心している。

（日本代協アカデミー推進に当たっては、モーターチャンネルの事務職員用のチラシ等検討いただきたい。行政との損害保険に関する包括連携協定について前年度の理事会で情報共有したが、横展開を検討するため、改めて連携いただきたい。）

（参考）京都の提携に関する活動はこれから始めるとのこと。概要は以下のとおり。

京都市では自治体として初となる「損害保険に関する連携・協力についての包括連携協定」を締結した。災害被害は拡大傾向にある中、補償する保険の加入率は低い傾向にあり、市民の早期の生活再建に資するために、業界団体と連携し、防災知識の普及啓発、損害保険への加入促進、災害発生時の市民への円滑な損害保険の請求手続きの支援を行うこととなった。京都代協、京都保代協組、損保協会（近畿支部京都損保会）と協定を締結した。特定修理業者対策にもつながる仕組みである。

- ・県自転車条例が7/1施行され、県はその相談窓口を県代協に置くことを決定したことにより、県民の代協認知が高揚し、自転車に関する出前授業が13件開催済である。また

TP 認定にスポットを当て、TP 認定者は顔写真付き、非認定者は顔写真なしと差を設けた広報を展開している代協も出てきた。各会長と今後も情報交換を続け、支援していく。

- ・初めてリアルで会えたが、エリアが広く移動は大変である。委員の選出基準の確認に対するハレーションや表彰者選考(下支えしてくれた方にどう報いるか、推薦文と一緒に考えるなど)の難しさでは苦心している。また、地域の問題もあるが、組織の連続性の確保は難しい問題(引継ぎが十分ではない。)と感じている。

ブロック事業計画アクションシートの空欄が多い先とは打合せを行い、優先取組項目を共有する動きをとっている。各ブロック・各代協の組織率アップへ個別打合せを進める。(7社懇談会にて、損保7社に対して、組織率40%未満の代協への特別な支援を要請した。)

- ・会費額値上げに対する不満や近隣地域での地震保険料率の差異に対する困惑への対応を行った。保険会社との人間関係再構築や三冠王の取組項目・目標の確認、基本行動の確認などの動きが確認できたので、後押しする。

代協活動のことが伝わっていない若手会員の活躍の場の設営、持ち回りでミニコンベンション実施など3ブロックでの情報交換会を企画する。(情報提供がいかに大切かを腹落ちいただくために)

(地域担当理事は、各ブロック協議会の議事録を地域サポート副会長へ写しを送付していただきたい。)

(特定修理業者問題もあり、迅速かつ適正な支払が課題となっている火災保険の商品改定に関する情報収集ととりまとめのうえの情報提供の要望があった。)

(地域別委員会別資料) 事業計画アクションシート(地域別委員会別資料 P.1-16)
事業計画アクションシート(追加資料 P.1-11)

(2) < 委員会担当理事 >

委員会担当理事(委員長)からは、諮問事項の推進に関する取り組みについて、報告があり、情報共有した。

企画環境委員会

松本委員長より、諮問・推進事項に関する取組報告があり、共有された。

諮問事項：

- 1 代理店の価値向上策の推進(リスクマネジメント講座・BCP策定・事業継続力強化計画認定申請・社労士診断認証制度 等)
- 2 募集現場の実態のモニタリングと対応策の実施(不適正募集、保険会社戦略、共通化・標準化を含む)

- ・8/5(金)13時~17時全国オンライン会議を実施する。任意参加ではあるが、代理店の価値向上策(チャネル間競争力の強化)の推進に関する最新情報を確認し、各代協の施策と調和を図っていただきたい。参加に当たっては昨年制作した各セミナー、独禁法・保険業法セミナー動画の視聴をお願いする。また、まずは会員が取得、認定を受け、顧客に対して展開することが重要だということ共有したいと考えている。

今年度も新たにセミナーを開催する。中企庁、社労士会と連携しセミナーを企画する。

ジギョケイを8月下旬、社労士診断認証を12月初旬に提供できるよう動く。

課題：各取組の内容や背景の理解、必要性の認識、理解度の向上、費用負担感(地域の連携を通して割引交渉)やITリテラシー問題、情報提供産業としての自覚・矜持の醸成

- ・不公正募集のモニタリング：各代協から広く情報を収集し、保険会社戦略の問題などについて行政等に連携する。また、保険金請求サポート業者や特定修理業者への対応については、集めた情報をリスト化し、損保協会と連携する。
- ・自主取組では、1.経営努力を重ねる代理店が評価される基準（JSA-S や提携事業のあっせんなど）について、2.専属・乗合と代手ポイントの在り方の検討など新しい代理店モデルに取り組みたい。9/29（木）に次回委員会を開催する。また各地域にも出向いていきたい。

〔追加資料〕企画環境委員会報告シート（追加資料P.12）

教育委員会

- ・石川委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。

諮問事項：

1 日本代協アカデミーの展開

2 損害保険大学課程の運営・検証・改善

- ・6/10 新任委員オリエンテーション、6/29 教育委員会をリアル開催でき、過去から脈々とつながる熱い想いを伝えるなど情報と熱を伝えられた。
- ・日本代協アカデミーの展開では、代理店の経営力向上のためにブレインマークスによる「激動の時代を切り開く、損保代理店の経営の設計図」10回シリーズを登載する。第1回目を先日登載したが、気付きをもらえる内容なので、急ぎ視聴いただきたい。

公的保険eラーニングも最終の詰めを行っており、10月の新プラットフォーム移行に合わせて提供できるよう各所と協議を進めている。

なお、利用者ID数、利用代理店数は伸ばせておらず、日企社の収益性は悪い中ではあるが、eラーニングのシステム自体の使い勝手の悪さをはじめとする利用者からの要望の解決を協議してきた。その結果、システムのプラットフォームを10月から変更するという提案を受けているため、頭出しをさせていただく。

- 1.操作性の向上（情報コンテンツでも、受講履歴等が残せないか）
- 2.学習のしやすさ（目的ごとにコンテンツをパッケージ化できないか）
- 3.インフォメーション機能の改善（バナーや動画、メッセージの掲載）
- 4.利用者単価の不公正感の是正（大規模代理店の料金が安すぎないか）
- 5.学習テストの定期更新（テストの毎年更新）
- 6.利用料決済方法の多様化（郵便振替からクレカ決済、銀行振込などへの変更）
- 7.視聴者との対話ができる仕組み登載

などについて10月改定へ向けては、まだパワポ資料での解説レベルで実際の動作検証ができるレベルではないが、29日の委員会にて基本的の方向性について審議を行った。

- ・料金改定については以下の提案を受けている。

現行利用料金：上段、提案利用料金：下段

申込人数	1人	2-9人	10-19人	20-29人	30人以上	合計
利用料金	5,500	11,000	22,000	33,000	44,000	—
人数単価最大値	5,500	5,500	2,200	1,650	1,467	—
人数単価最小値	5,500	1,222	1,158	1,138	54	—

利用者人数	1人	2-9人	10-19人	20-29人	30-49人	50-99人	100-299人	300-499人	500-699人	700人以上
利用料金	6,000	12,000	25,000	50,000	70,000	100,000	180,000	450,000	500,000	600,000
値上げ幅	500	1,000	3,000	17,000	26,000	56,000	136,000	406,000	456,000	556,000
値上げ率	9.1%	9.1%	13.6%	51.5%	59.1%	127.3%	309.1%	922.7%	1036.4%	1263.6%

(諸物価高騰により全ランクで値上げ。人数別区分を増設し、人当たり利用料の平均化。) 不利益変更となる利用者もいるため、激変緩和措置や経過措置の設営についても日企社と協議していく。

(参考)OEM提携の可能性を模索している「成島ADVとニュートンFGが実施しているeラーニング」では、各社の差異(クーリングオフ期間、ロードサービス、各種規定など)に焦点をあてた問題が提供されているが、利用料としては月5~10万円の費用が必要となる。

- ・2022年度の損保大学課程コンサルティングコースWebセミナー7/5(東京)から開始された。本日7/7(東関東)も開催中である。7/5はKDDI通信障害や台風による悪天候により接続ダウンする方が続出した。また司会者が落ちて司会者をフォローするサブ司会者が代行したなど累計で53回目となっても経験値をブラッシュアップする出来事が起きている。運営側の負担はなかなか減らない実情をご理解いただきたい。
- ・昨日の7社懇談会でもAIG社が積極的に日本代協アカデミーの利用推奨を展開いただいていることが確認できた。また、あいおい社との共催セミナーが軌道に乗ってきた。セミナー(第一部はAD社が個社のカラーを極力抑えてビジネススタイルの変革セミナーを実施、第二部で代協が代理店賠償と日本代協アカデミーの活用を行う)を企画し、AD社は代協非会員を積極動員し、代協側は会員を動員するという役割分担で開催。三重、愛知(300名)では開催済で、今後、岐阜、静岡、東関東と広がっている。早急に企画を検討いただきたい。全国展開そして理想は他の保険会社での開催も働きかけていきたい。

[地域別委員会別資料.]教育委員会報告シート(地域別委員会別資料P.17-18)

組織委員会

- ・藤山委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- 1 ブロック・代協・支部の強化
- 2 「仲間づくり(会員増強)」の推進
- 3 代理店賠償の推進
- ・新メンバーでの委員会は7/14開催で当初のリアル開催の予定から、コロナ禍の現下情勢のよりWeb開催と変更したところである。委員会の運営方針は基本的に中島前委員長のやってきたことを踏襲して進める。「おもしろい」「役に立つ」「また来たくなる」をミッションとして進める。
- ・「長崎・福井モデル」、「東京モデル」を参考に、各代協モデルを作成してくることを宿題としている。個人の頑張りだけで入会目標達成を狙うということではなく、組織として役割分担して目標達成していくために、自社の経営と一緒に、年間スケジュールを共有し、集客の企画実施、未加入者リストの整理等を行うことが重要である。委員の交代時に過大な負荷と感じるようでは、今後の委員の成り手がなくなってしまうため、各代協の推進モデルをしっかり作り込み、PDCAを回す形を作り上げたい。このことからキーワードは「TTP」(=徹底的にパク)として諮問事項を推進する。Web委員会の開催やDirectでの情報連携もフル活用して情報だけでなく熱を伝えていく。
- ・4副委員長担当ブロック制を導入し、ブロック組織委員会後に正副委員長でWeb会議を開催し、情報共有を進める。
- ・企業チャネルなど専業チャネル以外の代理店にも代理店賠償の必要性が伝わるよう保険会社と連携する。

〔地域別委員会別資料〕組織委員会報告シート（地域別委員会別資料 P.19）

CSR委員会

- ・大城委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- 1 防災・減災の具体的取り組みの検討・推進（ハザードマップ、マイタイムライン、定期的な防災訓練の情宣・普及 等）
- 2 継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車）
- 3 「ぼうさい探検隊」の積極推進
 - ・6/22 新体制での委員会をリアル開催した。闊達な論議ができた。
 - ・副委員長2名の再任と好取組に関しては direct を駆使して情報共有を進めることを決定した。
 - ・京都での損害保険に関する包括連携協定の横展開を検討したい。リスクコミュニケーション、リスクコントロールは損保代理業のコア業務であり、ここに注力することで、ぼうさい探検隊に関する取組の会員への認知度も向上し、三冠の目標自体は簡単にクリアできるレベルではないかと考えている。
 - ・全国 CSR ミーティングを9/6に開催する。（7/20 事前打合せを行う。）
 - ・代理店で「防災士」の資格を取得し活動している事例の紹介をお願いしたい。

〔追加資料〕CSR委員会報告シート（追加資料 P.13）

広報委員会

- ・大和委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- 1 日本代協並びに損害保険トータルプランナーのブランド力向上に向けた PR 施策の検討・実施・活用（対外広報）
- 2 各代協のホームページ運営に係る共通ガイドラインの浸透
- 3 「みなさまの保険情報」の利用拡大に向けた情報提供と具体的推進（他委員会との共同取り組み）
- 4 「代協の魅力伝えるツール類」の活用推進(対内広報)
 - ・6/15 にリアル開催で委員会を開催した。PR 企画に関しては、審議事項での説明のとおり。
 - ・全国一斉 Zoom ミーティングは8/26 開催予定で、「HP・SNS ガイドライン」も取り上げる。
 - ・「みなさまの保険情報」の利用拡大に向けた具体的推進ならびに「代協の魅力伝えるツール類」の活用推進については、PT を組成し、現状の共有と解決策の検討を行う。今まで委員会の中で「みなさまの保険情報」の紙面の作り込みを論議していたが、今後は PT の論議で制作を行うこととした。委員会では拡大策の論議を進める。

〔地域別委員会別資料〕広報委員会報告シート（地域別委員会別資料 P.20）

2. 前回理事会（2022.6.14）以降の主な業務報告

（1）「仲間づくり推進」6月末状況のご報告

【主な内容】

- ・6月累計で入会 72 店、退会 140 店（内廃業・合併 98 店）、合計 68 店（前年度は入会 77 店退会 207 店で合計 130 店）、累計で 11,026 店となった。
- ・代申会社別では、東海日動 21 店、三井住友 19 店、損保ジャパン 12 店、あいおい 11 店、日新 5 店など減少の一方で、共栄・AIG・楽天・chubb は±0 店と現状維持となった。
- ・代協別では、和歌山 75%、福岡 69%、香川 67%、沖縄 60%、青森・山口 50%と奮戦している一方で入会が「0」の代協が 15 代協（去年は 19 代協）ある。

〔資料 報 1.〕2022 年度 仲間づくり推進 6 月末状況 (1.代協別、2.代申別)(追加資料 P.14-15)

(2) 日本代協アカデミーの展開

【主な内容】

- ・6/21 時点の ID 登録状況は、862 店(前年 6 末 968 店)・7,139 ID(前年 6 末 6,751 ID)である。
- ・10 月に 3 度目の利用手続きの更新を迎えるが、システム改定および新コンテンツについて改めて連絡する。中島副会長のキントーン活用に関する動画やブレインマークスの代理店の経営力向上セミナーが多く気付きが得られると好評である。

〔資料 報 2.〕日本代協アカデミー利用者集計 (P.7)

(3) 損害保険トータルプランナー認定状況等

【主な内容】

損害保険トータルプランナーの認定状況等

5 月末時点	損害保険トータルプランナー	18,662 名 (+ 118 名)
	認定有効者数	15,767 名 (+ 38 名)
	代理店検索機能登録	4,446 店 (+ 4 店)
	損害保険プランナー	73,256 名 (+ 18 名)
	有効認定者数	34,418 名 (287 名)
	ゴールドカード保有者	7,771 名 (+ 59 名)

認定バッジ申込者数推移

2022 年度のバッジ購入は 22 個に留まっている。

〔資料 報 3.〕1.損保トータルプランナー認定状況等 5 月末状況 (P.8-9)
2.認定バッジ申込状況 (P.10)

(4) 代理店賠償「日本代協新プラン」の更新対応

【主な内容】

- ・募集ツールの配信：2022 年 8 月 5 日(金)一斉発送予定
- ・募集締切日：2022 年 9 月 2 日(金)
- ・補償内容の変更なし、保険料に関しても割引・割増の制度を含めて変更なし。
パンフレットは寅年の虎の絵を使用した内容で、QR コードを活用し、募集人 1,000 名までの保険料表と加入時の Q&A を盛り込んだ。

〔資料 報 4.〕2022 年度「日本代協新プラン」パンフレット(追加資料 P.16-17)

(5) 代理店経営サポートデスク相談状況

【主な内容】

- ・サポートデスクによる個別相談は、代理店のための、代理店の立場に立ったよろず相談窓口の機能を果たしており、代協の価値であり、利用会員からは好評を集めている。正会員実態調査での認知度 22.2%の大きく改善することが大きな課題である。
第 1 期代理店経営未来塾のサマースクールは、8/22 の午後の中島副会長を囲んで開催する。

〔資料 報 5.〕代理店経営サポートデスク相談明細(追加資料 P.18-20)

(6) 業界紙懇談会実施予定(7/1[金]17 時~3 年ぶりのリアル開催)

【主な内容】

- ・日本代協事業計画の概要、重点的な取組みを報告し、最近の業界を取り巻く諸課題について、幅広い意見交換を実施した。保険研究所1名、保険毎日新聞社2名、新日本保険新聞社1名が参加され、関係構築という目的は十分に達成された。

〔資料 報6.〕業界紙懇談会の開催案内（P.14）

（7）損保7社・損保協会との懇談会実施報告（7/7[木 16時～17時30分 リアル開催]

【主な内容】

- ・損保7社・損保協会との懇談会：7/7（木）15：30～リアル開催した。コロナ感染者の急増を受け、残念ながら懇親会は中止とした。日新社が欠席であったが損保6社と損保協会の参加のもと開催した。双方の参加者紹介に続き、当会からの活動説明（含む要望）を行い、損保各社から取組状況を発表いただいた。各社は協力的であり、確実に距離が近づいていると感じた。

〔資料 報7.〕損保7社・損保協会懇談会の開催案内（P.15-16）

（8）2022年度第1回活力研の開催

【主な内容】

- ・7/21（木）にリアル開催を予定している。
- ・論議テーマは以下の3つと考えており、各社と事前の打ち合わせも実施する予定である。
 1. 実態調査結果による、代手ポイント変動のチャンネル分析
「収入保険料と手数料ポイントの増加・減少」に関する実態調査結果において、専門チャンネルは、企業、金融機関チャンネル、自関連チャンネルと比較して、収入保険料が減っていてもポイントが下がったという回答割合が多かったことを受け、検証を依頼する観点から、テーマとした。専門チャンネルにとっては少々制度自体が厳しいものとなっていないかと推測したものである。
 2. 火災保険基準代手率変更に関する対応
現場での各代理店への説明状況、本社から各現場へ伝えている留意事項、そして説明を聞いた代理店の反応等、現場の状況の確認を共有するものである。
 3. ドライブレコーダー特約の推進を題材として、保険会社と代理店のコミュニケーションギャップの解消方法を考える
できるだけ論議に時間を使いたいテーマとして提示した。
ドラレコ（ないしはテレマティクス）については各社とも強力で推進されており、代手ポイント制度の評価項目にも程度の差はあれ、含まれている。一方で代理店サイドからは、保険会社は付帯率何%達成をと数値目標のみの要請となっている実態がある。
保険会社の思いと代理店の受け取り方に、生じているギャップについて論議テーマとした。
必ずしも保険会社サイドのアプローチの問題だけではなく、代理店内でドラレコ特約に取り組む意義を従業員にしっかり伝えていないといったことも考えられるが、この問題は、より本質的な課題があるように感じている。
- ・なお、活力研の論議内容については議事録配信だけでなく、ポイントを報告する動画の作成など工夫する必要があると考えている。

〔資料〕2022年度第1回活力研開催のご案内（P.17-18）

3. 情報提供

（1）業界動向最新情報

【主な内容】

- ・22日の日経新聞記事内容の件：連携済の内容は次のとおり。1.記事としては、やや踏み込み過ぎの内容となっている。2.苦情が多いのは事実だが、いきなり立ち入りを行うといったことではない。ただし、ヒアリング（実態把握）は行っていく予定。3.監督パッケージ策の損保の部分の記事も正確ではない。あたかも金融庁に手数料ポイント制度に切り込むような印象を持つかもしれないが、そうではなく「保険会社と代理店が円滑に連携し、業務品質の向上を目指してってもらいたい」というのが当方の意図であり、この点は従来通りである。

この点についての追加情報をお知らせする。

- ①「代理店による保険販売をめぐる苦情件数が近年高止まり」していることとは主に生保分野のことで公的保険の説明や外貨建保険の苦情が多いとのことである。約10年前では営職取扱は約70%あったが現状では約60%となっている。約40%の取扱割合の代理店扱契約にて、過半数以上の苦情が発生して高止まりしている。

「保険代理店監督パッケージ」に関しては、まもなく金融庁のホームページに開示されると思うが、6/9開催された業界団体（損保協会）との意見交換会で主な論点で取り上げられた。大規模特定代理店が提出する事業報告書の記載内容を見直しする。販売動向に関する項目中心から顧客保護に関する体制に関する項目中心に移すなど、顧客本位の業務運営の推進に向けて、損保会社と代理店の両者の円滑な連携を促している。コミュニケーションギャップにかかる諸問題に関しても、この連携の中で解決してもらいたいということが当局の意向である。保険会社の代理店管理の高度化へのメッセージもあり、代理店の規模特性を踏まえた体制整備特に業務品質管理の項目見直しなどが進むと考えられる。会社の管理・指導も必要だが代理店自身にも促すという当局のメッセージが出てくるような状況である。従来から言われていることで、保険会社と代理店の両者が力を合わせてお客様に価値を提供し、顧客本位の業務運営を徹底していくことが当局の最大の関心事である。

- [資料 報9.] 1. 0622日経記事_金融庁_保険代理店にメス (P.19)
 2. 業界関連情報 45, 46 (P.20-25)
 3. 0620新日本記事_野元日本代協前専務理事 (P.26)

(2) 損保協会新体制ならびに協会長ステートメント (6/30)

【主な内容】

- ・新会長（白川 儀一 損保ジャパン社長）はじめ新役員の略歴が紹介された。
 なお、船曳協会長は7月1日（金）来会される挨拶・情報交換を行った。

会 長 白川 儀一（損保ジャパン社長）新 任

副会長 新納 啓介（あいおいニッセイ同和損保社長）新 任

副会長 James Nash（AIG 損保社長）新 任

副会長 星野 次彦 重 任

専務理事/大知 久一 新任、常務理事/坂本 仁一 重任、常務理事/伊豆原 孝 重任

- [資料 報10.] 1. 損保協会新体制（追加資料P.21-22）
 2. 白川新協会長ステートメント（追加資料P.23-26）
 3. 船曳協会長ステートメント 0609（P.27-33）
 4. 財務省人事 0624（P.34-35）

4. その他

- ・金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習に関するフィードバック内容を共有した。
- ・金融庁監督局保険課の人事：

池田賢志前険課長は監督局総務課長に、西川課長補佐（サービス監視官）は生保担当に

係構築してきた方々が異動となった。

新保険課長には三浦知宏氏(1999年金融監督庁に入庁のプロパー1期生、直近はフィンテックを担当)が着任、課長補佐には猶原氏、係長には佐藤氏(損保協会から出向)が着任する。7/22(金)に小田島会長と金澤専務で挨拶ならびに会の組織や活動報告のためにアポイントが決まっている。

[資料 番外.] 0701 保毎記事_日本代協総会_女性初の小田島会長(追加資料 P.27)
金融庁 6/24 付人事_(追加資料 P.28-29)
その他

〔監事講評〕

白石監事から以下の通り監事講評があった。

- ・ 審議事項、報告事項ともに適正な運営がなされたものと判断する。
何点かコメント申し上げる。
- ・ 第11回日本代協コンベンションの企画においては、開催方法に式典懇親会ともリアル開催、式典のみリアル開催で懇親会中止、昨年同様のオンラインの開催等々選択肢があり、本日も様々な意見が出ていたが、今後のコロナの感染状況を踏まえつつ、再度、代協役職者の方々のご意見を十分にヒアリングしたうえで最終決定され、有意義なコンベンションが実施されることを願っている。
- ・ 日本代協ならびに都道府県代協加盟代理店のPR企画については、広告代理店3社の企画コンペの選考の結果、身内の共同広告社が、第三者の視点で伝えたい情報をターゲットに出して分かりやすく伝達でき、かつ不特定多数への配信でなくてターゲット層を含めて閲覧数を確保する広告配信という点が高く評価されて選定され、驚いた。監事の立場として申し上げることは甚だ僭越だが、私ども共立株式会社の関連会社である共同広告社が指名を受けたこと嬉しく思っている。感謝申し上げる。今後、共同広告社が映像コンテンツを作成してWeb情宣することで皆様と事業活動の発展に少しでも貢献できることは光栄であり、それによって代協加盟代理店の存在価値が一層クローズアップされて、市場への認知度が一層高まることを期待している。

最後になるが、この度、日本代協が小田島新会長が就任されたが、一方、損保協会も損保ジャパン社の白川社長が新会長に就任されて新体制になった。今後、双方がさらに緊密に連携して、保険分野での社会的な役割を果たして業界全体が持続的に成長していくことを願っている。

以上

< 諸会議開催予定 >

2022年6月～2023年2月のスケジュール (案)

損保会館の予約状況ならびに会議体のあり方の改定状況によっては、日程の変更がありますので、予めご了承ください。

2022年度	6月13日(月)	13:00～17:00	正副会長打合せ	リアル 日本代協 会議室
	6月14日(火)	10:00～	通常総会 理事会 政連臨時代議員会 会長懇談会	リアル 損保会館2F大会議室
	6月15日(水)	9:30～16:00 9:30～12:30	新任会長オリエンテーション 新体制理事打合せ	リアル 損保会館もしくは有楽町リファレンスまたは日本代協会議室
	7月1日(金)	17:00～18:00 18:15～20:45	業界紙懇談会(会長、広報担当副会長、広報委員長) 懇親会	日本代協 会議室 会場 未定
	7月7日(木)	16:00～17:30 17:45～20:00	損保7社懇談会(正副会長、教育・組織委員長) 懇親会	日本代協 会議室 会場 未定
	7月8日(金)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打ち合わせ 第3回理事会 テーマ:通常議題	日本代協 会議室 (懇親会 無)
	7月21日(木)	15:00～17:30 17:45～20:00	活力研(正副会長、企画環境委員長) 懇親会	日本代協 会議室 懇親会あり 会場 未定
	9月8日(木)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 第4回理事会 テーマ:通常議題	リアル:日本代協 会議室 又はWEB会議Zoom開催
	9月9日(金)	11:00～17:00 17:00～18:00 18:20～19:30 18:30～21:00	第1回ブロック長懇談会(リアル) 特別セミナー 同上懇親会(有志・会費制) 損保協会役員との夕食懇談会	リアル:損保会館 大会議室 またはWEB会議Zoom開催の場合には会長懇談会として開催 会場 未定
	10月14日(金)	9:30～10:45 11:00～17:00	正副会長打ち合わせ 第5回理事会 テーマ:通常議題	日本代協 会議室
	11月18日(金)	13:00～20:00	第11回日本代協コンベンション	グランドニッコー東京 台場
	11月19日(土)	10:00～12:00	第11回日本代協コンベンション分科会	損保会館、近隣施設
	12月2日(金)	午後	損保TP認定式(WEB開催)	WEB開催予定
	12月8日(木)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 第6回理事会 テーマ:通常議題	リアル:日本代協 会議室 又はWEB会議Zoom開催
	12月9日(金)	13:00～17:00 17:00～18:00	第2回会長懇談会(WEB会議:Zoom開催) 特別セミナー	日本代協会議室
	2月10日(金)	10:30～12:00 13:00～17:00 18:00～	財務委員会 第7回理事会 テーマ:臨時総会議案、通常議題 損保協会役員との夕食懇談会	日本代協会議室 会場未定

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、16時08分閉会した。

なお、WEB会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態が保たれ、終始異状なく議案の審議を終了した。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、出席会長（代表理事）及び出席監事がこれに記名押印する。

2022年7月8日

議長 会長 小田島綾子 印

議事録署名人 監事 白石雅一 印

議事録署名人 監事 津田文雄 印